

2021年度 大東文化大学大学院 英文学専攻 特別講義

普段の授業にはない希少な機会
ですので、是非皆様のご参加をお
待ちしております!

日時：2022年3月15(火)・16日(水) オンライン (Zoom) 開催
(10:15~ Zoom入室 / 10:20~ 開会 / 15:10~ オンライン懇親会 ※16日のみ)

連絡先：d.b.u.post.graduated.e.l.class@gmail.com

参加費：無料

参加ご希望の方は以下の URL、または QR コードにて必要事項をご記入の上、**3月12日(土)**
までにご予約ください。 <https://forms.gle/7AYB6uyGys8crNYJ9>



3月15日(火) 10:30~12:00

英国ファンタジーにおける「壁」 —Oscar Wilde が夢見た社会改良

フェリス女学院大学 文学部 英語英米文学科 教授
向井 秀忠

19世紀のイギリスは、産業革命を経て、農業国から工業国へと大きく変貌したことで人びとの生活を豊かにしたように見せた一方、看過できないほどの経済的格差(「二つの国民」問題)を生み出すことにもなった。Oscar Wilde が二つの短編童話(“The Happy Prince”と“The Selfish Giant”、1888)においてこの深刻な社会状況を批判していることを、作品に描かれた「壁」の意味を読み解くことで考えていきたい。合わせて、Daniel Defoe の *Robinson Crusoe*(1719)や Emily Brontë の *Wuthering Heights*(1847)、Frances Hodgson Burnett の *The Secret Garden*(1911) などにも言及する予定。

3月15日(火) 13:30~15:00

ポライトネスと認知症

清泉女子大学 文学部 英語英文学科 教授
田中 典子

認知症と共に生きる人はコミュニケーションにさまざまな問題を持つことが知られている。ここではポライトネスという視点から、具体例を考察する。

まず、初期の代表的なポライトネス理論のいくつかを概説し、それを基に、講演者とその母との会話を用いて、認知症の人がポライトネス上の問題を持ちながらも他者に配慮を示そうとする様子を見ていく。ポライトネス理論を知り、認知症と共に生きる人への理解を深める一助となれば幸いである。

3月16日(水) 10:30~12:00

To the Lighthouse にみる 労働者の身体の痛みと働く音

岐阜聖徳学園大学 外国語学部 専任講師
四戸 慶介

Virginia Woolf 中期の小説 *To the Lighthouse* の第2部 “Time Passes” に登場する労働者たちについて、身体の不調に焦点を当てながら考えます。戦争中に放棄されていた Ramsay 一家の家を再び利用できる状態に復旧させるよう申し付けられ、身体の痛みを抱えながら家の掃除をする Mrs McNab や Mrs Bast の膝のきしみやその膝の痛みにあえぐ声が、彼らが働きながら立てる「音」と混じり合い、その後訪れる風や動物の鳴き声、「完全に調和することのない音」を生み出す瞬間を、労働者表象や小説の構成との関係から考えます。

3月16日(水) 13:30~15:00

シェイクスピア、ルイス・キャロル、 マザーグースと私

マザーグース学会
高屋 一成

これまでに、土岐善麿のローマ字童謡集 *Otogiuta* で白秋訳より古いマザーグース訳を発見したり、答が百年以上忘れられていたルイス・キャロルのなぞなぞ詩の答を思いついたり、大正期の児童誌『金の船』でキャロル晩年のファンタジーの世界最古の訳を見つけたり、現存最古のナーサリー・ライム集成 *Tommy Thumb's Pretty Song Book*(1744年)の出版者が誰か気づいたり…してきました。何がこれらの「発見」につながったのか? 少し振り返って考察してみます。